

7507

## 唐三郎窯

TOUZABUROU GAMA

事業所名	唐三郎窯	FAX番号	0561-82-4956
代表者名	加藤 唐三郎	Eメール	
所在地	〒489-0023 瀬戸市窯元町80	ホームページ	
連絡先	0561-82-4832	部会名	陶芸部会

初世 景正 藤ノ四郎兵衛 春慶

貞応2年3月道元禅師に随い唐に渡り、陶技を練修、安貞2年8月帰朝後瀬戸に窯を築く、時任三千一寅年なり、瀬戸陶業の祖なり。

19世 景貞 利右衛門 後に唐三郎

初世景正より19代の直系に当たる。慶長13年美濃國郷之木に移り陶業を営んでいたところ、慶長15年2月5日、景正の直系の家系の者として、徳川家康公の命により召出され、赤津に於て家康公並びに尾張徳川家の御用を勤むべく命ぜられた。

この時、景正名を唐三郎と改め、苗字帯刀を許され爾後窯屋として家宅、窯場、御除地八反五畝二十四歩を永代拝領し、年貢諸役を免除された。

平成3年4月、31世 唐三郎を襲名(旧名 幸次)し、現在にいたります。

昔は茶道具が主流でしたが、現在では花器、和食器、陶芸品全般を手掛けています。唐三郎ブランドがもつ伝統の技を大切にし、独自の技法やデザインを積み上げて上質の作品を作っています。

年に2~3回、展覧会を開催し唐三郎ブランドをアピールすると同時に、食文化と焼き物を融合させる展開をしていると考えています。



御深井線文花入

## 略歴

昭和23年 愛知県瀬戸市赤津に生まれる、  
 昭和49年 東海伝統工芸展初入選 以後38回連続入選  
 昭和53年 日本伝統工芸展初入選 以後 24回入選  
 昭和54年 東海伝統工芸展奨励賞受賞 以後 5回入選  
 平成3年 第31世・加藤唐三郎を襲名  
 平成4年 「東海の作家たち」展出品  
 平成8年 第27回 東海伝統工芸展審査員 以後3回審査員  
 平成11年 丸栄(名古屋)個展 以後 隔年開催  
 平成14年 高島屋(日本橋)、高島屋(岐阜)個展

## 現在

(社)日本工芸会東海支部 幹事  
 瀬戸陶芸協会 常任理事  
 県立瀬戸窯業高等学校 非常勤講師  
 CBCクラブ 会員  
 日本工芸会 正会員  
 瀬戸市無形文化財保持者



御深井釉刻文鉢



黄瀬戸線文花入



黄瀬戸刻文花器